



自著を語る 渡部昭男、國本真吾、垂髪あかり編，糸賀一雄研究会著『糸賀一雄研究の新展開：ひとと生まれて人間となる』

渡部，昭男

(Citation)

研究論叢, 27:119-126

(Issue Date)

2021-07-15

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81012891>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012891>



5. 自 著 を 語 る

渡部昭男・國本真吾・垂髪あかり編

糸賀一雄研究会著

『糸賀一雄研究の新展開 ひとと生まれて人間となる』

渡部 昭男（元神戸大学¹）

【糸賀一雄研究会（2014年発会）】

このたび、糸賀一雄研究会著『糸賀一雄研究の新展開 ひとと生まれて人間となる』（三学出版 2021）を上梓しました。私が神戸大学に赴任して3年後の2014年、糸賀一雄（1914-68）の生誕百年を機に糸賀一雄研究会はスタートしました。その辺の経緯は、本書「まえがき」をご覧ください。

ところで、国立国会図書館サーチにおいて「糸賀一雄」で検索すると、407件がヒットします。そのうち232件が「本」区分なのですが、博士論文は未だ2件に留まっています（CiNiiの博士論文検索でも同様）。すなわち、「糸賀一雄／博士論文」で検索すると、①中山慎吾 1991「糸賀一雄論：福祉実践における福祉理念の研究」（筑波大学／博士（社会学））、②蜂谷俊隆 2012「糸賀一雄の研究：戦後知的障害児者福祉の展開と糸賀の業績・思想をめぐって」（関西学院大学／博士（人間福祉））です。そして、ともに福祉領域の研究となっています（お二人は研究会メンバーです）。

一方、糸賀の実質的な師ともいわれる木村素衛（1895-1946）に関しては、CiNiiの博士論文検索で①大西正倫 2011「表現的生命の

教育哲学：木村素衛の教育思想」（京都大学／博士（教育学））、②門前斐紀 2017「『表現愛』の人間学：木村素衛教育学における身体論の系譜」（京都大学／博士（教育学））、③山田真由美 2020「京都学派の教育思想における主体概念に関する研究：高坂正顕と木村素衛の『歴史的主体』概念を手掛かりに」（慶應義塾大学／博士（教育学））というように、いずれも教育学の研究であることと対照的です。

糸賀一雄研究に、福祉領域に限定せず教育学を含む多分野から接近してみたい、若い世代にも執筆してほしい、実践現場の方々にも参画していただきたい等といった、私の個人的な願望から今回の出版企画は出発しています。

1982年、大学院を満期退学した私が幸いにも着任できた鳥取は、糸賀一雄の生れ故郷です。鳥取第40聯隊を病気で召集解除になった糸賀は、1940年に滋賀県庁に奉職し、滋賀県で活躍した人です。1946年には大津南郷の地に田村一二・池田太郎らとともに近江学園を開き、県職員の身分のまま園長職を務め、1968年に大津で開催された新任職員研修会で倒れて亡くなります。ですから、大津にある三学出版²にお願いすると決めました。2019年末に中桐和弥氏に連絡を取り、仮題『糸賀一雄研究の新展開』を出版する内諾をいただきました。

【企画：構想を練り寄稿者を募る】

幸いにも、研究会と私の周辺には幅広い分野と年齢のメンバーが集っていましたので、

1 神戸大学大学院人間発達環境学研究科名誉客員教授／大阪成蹊大学特別招聘教授

2 科研費助成出版で全624ページにもものばる渡部昭男 1996『「特殊教育」行政の実証的研究』を責任編集して下さった中桐信胤氏が設立した出版社であり、渡部編 2012『日本型インクルーシブ教育システムへの道』、渡部共編 2015『地方教育行政法の改定と教育ガバナンス』もお引き受け下さった。

多彩な顔ぶれを思い浮かべながら構想を練りました。

糸賀一雄研究会は会則もなく、会費も徴収しない、実にアバウトな会です。インターネットのメーリングリストMLを活用した情報交流及び意見交換の場ですが、さまざまに共同企画を呼びかけやすい神戸大学教授という立場にあった私が一応主宰する形を採りました。そして、日本特殊教育学会の自主シンポ、神戸大学大学院人間発達環境学研究科の学術講演会・学術Weeksなどを通じて、企画を積み重ねました。その一覧が表1です。

表1. 執筆者案の顔ぶれ

氏名	依頼	既報告	企画年
蜂谷 俊隆		「『重産界の生産性』概念とその形成過程」	2014学術Weeks
		糸賀一雄の研究—人と思想をめぐって—	2015学術Weeks
		糸賀一雄の福祉思想	2016学術Weeks
		—「教育家」と「社会の世界」をめぐって—	2018自主シンポ
高永健太郎		「糸賀一雄の研究」(2015)を踏まえて	2019学術講演会
		糸賀一雄における実践的学習	2014自主シンポ
		糸賀一雄の生涯学習思想の形成と展開	2015自主シンポ
		ミッドレーベンと教育観	2015自主シンポ
森本 創		糸賀一雄最晩年の思想—	2015学術講演会
		エロスとアガペー—(向山素徳と糸賀一雄)をめぐって—	2015学術Weeks
		糸賀一雄の生涯学習思想の形成と展開	2019自主シンポ
		糸賀一雄の思想形成と近江学園実践について—近江学園指導記録資料の検討を中心に—	2014自主シンポ
遠藤 六朗		「発達保障」の思想と実践	2016自主シンポ
		—近江学園70年のあゆみ—	2017学術講演会
		糸賀一雄と岡崎素彦の類似と相違—	2018自主シンポ
		重産界者地域福祉づくりのなかで考えたこと	2019自主シンポ
中山 慎吾		糸賀と岡崎の思想展開を探る	2014学術Weeks
		障害児(者)に關わる人々どうの肯定的側面—	2016学術Weeks
		糸賀一雄の生涯学習をめぐる著作からの考察—	2018学術講演会
		木村素徳の教育思想—「教育家」と「表現家」をめぐって—	2018学術講演会
Lynne NAKANO		「糸賀一雄の最後の遺稿」の出版を期して考える	2018学術講演会
		「糸賀一雄」の生涯を期して考える	2018学術講演会
		「糸賀一雄」の生涯を期して考える	2018学術講演会
		「糸賀一雄」の生涯を期して考える	2018学術講演会
山川 真友		博士論文(2016)並びに	2018自主シンポ
		「最後の遺稿」韓国語訳の経緯を踏まえて	2019学術講演会2
		教育者の専門性、木村素徳の「表現家」態度を手がかりに	2014自主シンポ
		糸賀一雄の生涯学習をめぐる著作からの考察—	2015自主シンポ
門前 愛記		「ミッドレーベン」が意味するもの	2015学術Weeks
		「ミッドレーベン」～糸賀一雄の生涯の遺稿	2015学術Weeks
		「重産界」の形成と展開—糸賀一雄の生涯を期して考える	2014学術Weeks
		「発達保障」の思想と実践	2016自主シンポ
重産あかり		—びわこ学園50 年のあゆみ—	2019学術講演会
		重産界者地域福祉をめぐる時代背景と近江学園・	
		びわこ学園の思想と実践	

お一人だけは都合で辞退されましたが、皆さん、すでに発表した原稿が手元にあったことで担当する章が容易にイメージでき、引き受けやすかったのだと思います。表の空欄に仮題を入れてもらって出版全体の輪郭を描き、さらに数名に論考やコラムを追加依頼することにしました。

2020年5月に「17論考・4コラム」案(構成:はじめに・目次、思想・歴史、実践・歴史、田村・池田・岡崎、実践現場、国際的視点、優生思想、総論、コラム、あとがき・索引)を全執筆者に送り、原稿締切は10月末、刊行は2月見込みとしました。糸賀氏の誕生

日である3月29日までには公刊し、2021年度のテキスト指定にも間に合えばという思惑からです。

【執筆:ベース(ムード)メイカーとなる】

私は本を出すのが好きです。いままでも多くの出版にかかわりました(写真1:國本真吾撮影)が、編集役を務める際には自らベース(ムード)メイカーになることを心がけています。

執筆者間の遣り取りのために糸賀研究本MLを共編者の國本真吾さん(鳥取短期大学)と垂髪あかりさん(神戸松蔭女子学院大学)に作成してもらい、8月下旬には私担当の「まえがき」「目次」を配信しました。



写真1. 渡部のかかわった出版物

さっそく反応があり、原稿一番乗りは遠藤六朗氏(元びわこ学園)でした(9月上旬)。その原稿を三学出版に送って「紙面イメージ」をつくってもらい、ベース(ムード)メイカーとして9月下旬に配信しました(文面は下記)。

「出版企画にご参加の皆様へ

ご寄稿一番乗りの遠藤先生のお原稿をもとに、紙面イメージを共有できるよう、三学出版の中桐さんに作業を進めていただきました。」

以降、続々と原稿が寄せられ、そのたびに私からのお礼と率直な感想を添えてMLで

共有しました。私の総論「情熱をもった人間が歴史をつくる」も、10月25日に皆さんに見ていただきました。11月19日には最後の論考データが届き、最終的には「15 論考・1 資料・5 コラム」となったのです。

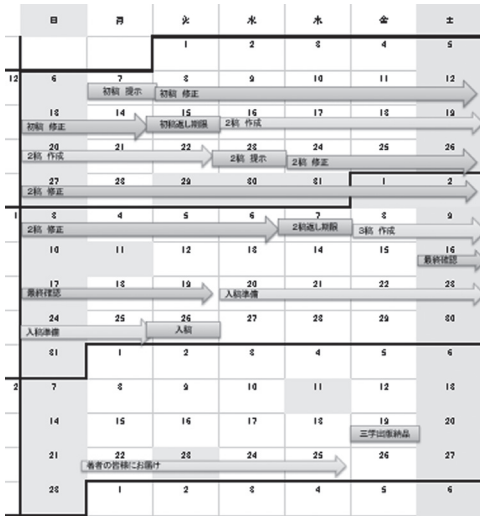


図1. 校正スケジュール案

【編集：編者三名と出版サイドで編む】

三学出版サイドで校正スケジュール案を組んで貰いました(図1)。相当にタイトです。

まず初校に向けて、私から以下のような依頼メールを送りました(資料1：12/7付)。

1) 初校のお願い

- ・締切り＝12月14日(月)夜まで/1週間でお願い致します。
- ・方 法＝PDFデータを各自印刷し、朱書きにて校正し、それをPDFデータ化して我々4名(メールアドレスのCC欄にあり)に同時送信して下さい。

(PDFデータ化が難しい方は渡部までご相談ください＝郵送またはFAXで対応しますの
で)

- ・校正箇所＝ご自身の原稿、目次&執筆者一覧のご自身の箇所
(修正がない場合も、その旨をお知らせください)
- ・いただいた初校を我々4名が共同で点検いたします。

2) 索引づくり

- ・初校にカラーペンでマークのない〇印、または別途に書き出し
(難しいワードには、必ず「読み仮名」を付して下さい)
- ・論考の方＝10～15ワード
コラムの方＝3～5ワードです。

(頻出するワードは×です。例：「糸賀一雄」
ただし、「糸賀一雄の〇〇」とすればヒット回数が限定されるので、索引に可能です)
・いただいたワードを我々4名が共同で一覧にし、用語ごとに検索してページ数を確定し、索引表の原稿を作成します。

資料1. 初校依頼メール

あとで読み返すと、かなり強引な書きぶりなのですが、有難いことに執筆者はこれに応えてくれました。

予定では年内に再校データを送り、年末年始に作業をしていただいて、正月明けに返して貰う段取りになっていましたが、そうは行きませんでした。最初に執筆要項を示して統一する方法を採らなかったために、表記法(引用方法、文献記載など)が不統一だったのです。個々の執筆者で完結しておればそれで良しとするか、せめて各部のレベルで統一させるのか、やはり本全体での一貫性を保つべきか…。中桐氏とも相談し、編集者三名は腹をくくることにしました。年末年始をまたぎ編集サイドで見直しを行い、個々の執筆者と遣り取りを進めて原稿の統一性を高めることにしました。

子育て中の垂髪さんは学校や保育所が冬休みの年末年始にそのようなゆとりはありませんし、しかもご自身の科研費助成出版(博士論文)の索引づくりや校正も抱えていたのです。が、やり遂げるしかありません。私が索引づくりを、國本さんと垂髪さんが前半/後半に分けて原稿のチェックを進めました。お二人は原典にあたって引用が正しいかどうかまで目配りしてくれました。並行して、凡例や執筆者一覧の作成、各部のタイトルと論考・コラムの配置、各論考の巻末に置く「ガイダンス」記事の調整、「あとがき」の執筆、本の副題や表紙を考える作業(國本「あとがき」をご参照ください)も、創造的に楽しみながら担ってくれました。

念校に関しては、確認依頼メールが2021年1月21日の午後2時配信で、翌朝7時までという突貫工事でした。印刷に回ったあとも、幾つかの誤植を発見して慌てて修正…。2月15日には中桐氏から、印刷所から直接発送する早い宅配便の人で18日に受け取り予定という速報が流れました。写真2は、



写真2.「午前便で届きました」

18日に受け取った私が撮影して皆さんに配信したもので、タイトルは「午前便で届きました📖 20210218」です。ちなみに奥付の記載は、2021年2月10日初版印刷、2月15日初版発行となっています。

【合評：関心をもつ者で読み深め合う】

編者の役割には、出版物を多くの方に広げ
届けること、読み深め合うことも含まれると、
私は考えています。

[illegible]

資料2. チラシ（國本真吾作成）

編者の一人である國本さんが、多領域からなる本書の構成の魅力と執筆者・タイトルが一目でわかる、『『この子らを世の光に』で知られる、障がい福祉の父・糸賀一雄の思想を現代に受け継ぐ学術書』と題した頒布用チラシ（資料2）をさっそく作成し、役立つ情報が満載の特設サイト（<https://sites.google.com/view/itogakenkyubook/home>）を設けてくれました。本書の構成・執筆者はそちらでご確認ください。

私の方では、日本教育学会近畿地区活動の企画の一つとして、「糸賀一雄の思想と実践——新刊『糸賀一雄研究の新展開 ひとと生まれて人間となる』(三学出版)を手がかりに」を3月30日に開催することとしました(船寄俊雄理事(神戸大学)のご理解も得て神戸企画としての位置づけ)。日本教育学会 ML などを通じた広報(資料3)によって、130 余人の参加希望登録を得て開催することができました。なお、当日の報告資料、すなわち

①【文化人類学からのアプローチ】Lynne NAKANO [永岡美咲訳](香港中文大学) 糸賀一雄の思想とマーサ・C・ヌスバウムの可能性アプローチの比較、②【社会福祉学/福祉社会学からのアプローチ】中山慎吾(大

日本教育学会近畿地区では、下記のとおりオンライン企画を開催いたします。

糸賀一雄の思想と実践——新刊「糸賀一雄研究の新展開 ひとと生まれて人間となる」（三字出版）を手がかりに

日 時：2021年3月30日（火）13~16時
(12:45~「糸賀一雄紹介DVD」上映 13:00開会 16:00閉会)

趣 旨：
糸賀一雄（1914-68）の生涯百年を機に2024年に発会した糸賀一雄研究会が、会員有志等からの15講義（5コマ・1資料を編んで、このほど「糸賀一雄研究の新展開 ひとと生まれて人間となる」（三字出版2021.2文）を上梓しました。ここに執事した三氏にご登壇いただき、「糸賀一雄の思想と実践」を文化人類学、社会福祉学、福祉社会学、憲法学から読み解いてみたいと思います。皆さまのご参加により、研究領域&圏境を越えた新たな知的交流・交歓の場となることを期待します。

※関連サイト：<https://sites.google.com/view/itoagakenkyuhooku/>
注 文 先：三字出版 sangaku@orc.ty

話題提供者：

» 【文化人類学からのアプローチ】
Lynne NAKANO [永岡美咲子]（香港中文大学）…糸賀一雄の思想とマーサ・C・ヌスバウムの可能性アプローチの比較

» 【社会福祉学/福祉社会学からのアプローチ】
中山悟吾（大分大学）…糸賀一雄と田村二一におけるケアの肯定的側面の検討

» 【法学からのアプローチ】
山崎時文（京都大学）…糸賀一雄と憲法における「人間の尊厳」

司 会：園本真吾（鳥取県立大学）、垂髪あかり（神戸松蔭女子学院大学）

資料3. 企画案内

分大学) 糸賀一雄と田村一二におけるケアの肯定的側面の検討、③【憲法学からのアプローチ】山崎将文(京都橘大学) 糸賀一雄と憲法における「人間の尊厳」、は先ほど述べた特設サイトにアップされていますので、是非ご覧ください。

反響が大きかったこともあって、その第二弾を日本教育学会第80回大会のラウンドテーブル企画(筑波大学、オンライン開催/2021年8月25日(水)15:15~17:15予定)に「糸賀一雄の『生産性』をめぐる対話~領域横断による読み解き〈社会福祉学/重症児教育学/教育人間学/文化人類学〉~」を申請中です。詳細及び新情報は、特設サイトにアップしますので、どうぞそちらでご確認ください。

【謹呈本への反響】

最後に、糸賀本を謹呈した方々からの反響を紹介しておきます(無記名・部分引用・改行無し表記となっている失礼をご容赦下さい)。沢山の感想と励ましをいただき、この場を借りて心より御礼を申し上げます。

～～～

- 糸賀の本をもらって、お礼を言わなあかんと思って。でもメールできひんから、よろしく伝えて。本はまだ読んでないけど、いい本やと思うわ。これだけの人を集められるのは、昭男の力やな。(出版社あての電話)
- ありがとうございます!!できれば普及もしたいので5冊くらい購入ができるでしょうか。
- ご編著書、拝受いたしました。糸賀研究をとてわかりやすい形にされたという印象をもちました。若手研究者のご執筆もあり、ある意味の退職記念出版ということで、とても腑に落ちました。どうぞまだまだご活躍くださいませ。
- 研究会の皆様のご活躍は日頃よりメールを拝見し素晴らしい取り組みをなされていら

っしゃるようすに感心しております。

- テグ大学H先生から、「糸賀一雄研究の新展開というタイトルだけで素晴らしい。何より多くの方が関わっていることがうらやましい。若い世代が糸賀の思想を広げようとする情熱も感じられます。出版されたら、私も購入します」という返信をいただきました。
- 御編著をお送り下さり誠に有難うございました。糸賀一雄さんの事はほとんど知りませんでしたので、大変勉強になります。糸賀さんは木村さんの弟子だった由。京都学派の哲学が近江学園に生きていると知って感銘しました。また、糸賀さんは小倉親雄先生と友人だったとか、あの温厚なお人柄の小倉先生の顔をしばし思いました。
- 『ひとと生まれて人間となる』をお贈り下さり、ありがとうございます。ほんとに多くの方が実践と理論を地道に積みあげてこられたのですね。読みごたえがあります。学ばせていただきます。今日の貧困と格差を克服する、ひとが人間となる過程での多様性と承認・協働を追求するエネルギーとなります。「ひとと生まれて人間となる」は、かつてカントが『純粹理性批判』で“神の支配”を批判して、“人の存在”を復権させたのを想起させます。いつの間にか“神”となった資本主義の中で貧困と格差を克服する光を示しているように思います。
- 御編著『糸賀一雄研究の新展開 ひとと生まれて人間となる』をお送りいただきましてありがとうございます。糸賀先生の「ひとは社会的存在・関係的存在である。共感の世界を繋がりあう中で人間になっていく」の言葉に出会い、長かった仕事人生の私の大切な「支え」であったとあらためて感じました。自分の仕事を振り返るための本当に良い素敵な贈り物をいただきました。

○『ひとと生まれて人間となる』の本をいただきました。ありがとうございました。パラパラとめくったところで目についたのが、糸賀さんがずっと離れておられたキリスト教について、神について、心に留められるページでした。子どもたちと共に生きようと決意されたあの辺です。糸賀先生の仕事の根底にはキリスト教があったと思いますが、私はもう一步、彼らの中にどういう形で神様を留めていくのか、自然に心の中に当たり前のように信仰が育てられるか…この辺についても、探ってみたい…と楽しみにしています。

○過日は、ご高編著『ひとと生まれて人間となる』をお送りいただきまして、ありがとうございました。このような地道なご研究を組織的に継続してこられたことに敬意を抱きます。この度のご出版が日頃の成果を反映していると思います。木村素衛の影響や小倉親雄との交流など初めて知ることも多く、とても興味深く拝読しました。糸賀の原稿が岩波新書で出版されていたならば、より多くの人に彼の思想と実践が知られていただろうと思うと、いささか残念ですが、貴兄らのご尽力によって、今後も新たな知見が得られていくことを期待しています。

○先生に教えていただいた自覚せる者の責任（ノブレス・オブリージュ）という言葉は私の襟を正すとともに、長年抱えてきた焦燥感をも軽減してくれました。学部生活最後の年でしたが、素晴らしい授業を受けることができ感謝しております。学部時代の学びの集大成とも言える時間を過ごすことができ、その後の論文執筆についても大きな影響を与えてくれました。4月からは学部を超えて新しい環境に身を置きますが、先生に教えていただいたことを胸に自分のことで社会に還元できることは何か

と日々探求しながら、精進して参ります。

○過日は御編著書『ひとと生まれて人間となる』をご惠贈たまわり、ありがとうございました。前著を拝読した時にも思ったことですが、渡部さんのご研究は糸賀一雄先生—田中昌人先生との三者一体の中で創造されていることをあらためて感じ、羨ましくもあります。それと今回は糸賀の情熱、魅力的な実践を若い世代に語りかけながら、新しい「糸賀の魅力を若い世代から教える」往還の教育スタイルも、渡部さんにとってはひきつづき大学で教鞭をとられる大きな魅力になっているのだなと思いました。愛と共感をもって益々のご活躍を念じております。

○「ひとと生まれて人間となる」ご惠贈いただき、まことに有難く存じました。駆け足で卒読いたしました。人間の尊厳、いのちの価値をどう考えるか。この問題は哲学的思想的に永遠の課題であるとともに、ケアの現場で極めて実践的で日常的な現代の問いかけだと思います。老生も終末を目前にして、自分のことと実感しています。糸賀一雄の実践と思想を手がかりに新しい展開をされている研究会のご発展をお祈りいたします。

○この度は共同研究の労作『糸賀一雄研究の新展開』をご惠贈賜り心より御礼申し上げます。貴兄と玉村さん以外は存じ上げず、若い世代との協同の姿にも敬意を表します。少しずつ読ませて頂きます。研究会仲間にも勧めてみます。

○この度は糸賀一雄先生研究のご本「ひとと生まれて人間となる」をお送りいただきありがとうございます。先生の名にふれ、懐かしい附属時代を思い出しております。ずいぶん前だったような、つい最近のような、そんな思いで少しずつご本を読ませていただいております。

- ご著書ご恵贈くださり、ありがとうございます。
ます。生誕 100 年、没後 50 年を経てなお
こうした書が多くの人々の参加を得て刊行さ
れることに、糸賀一雄の実践の豊かさと深
さを感じました。本書もまたそれを反映し
て、第 1 部から第 5 部まで、さまざまな角
度から論じられているのがとても興味深い
です。渡部先生のご執筆されていた「マイ
語録」の実践も「正解」ではなく、それぞ
れの学生の思いが反映されるのがとてもい
いですね。自分自身の感性で読み取って
いくスタイルが、「若い世代」にはふさわし
いように思えました。このあとは垂髪先生
の論文をはじめ、勉強させていただきます。
- …そんな事情のもとでミスが生じ、先生
が恵送してくださったご高著を拝見した
のは昨日のことでした。申し訳ございま
せん。遅ればせながら、ご厚意に衷心よ
り感謝申し上げます。さっそく前書きと
第 15 章を拝読しました。先生の学問的・
社会的情熱と企画力、地道な取り組み（行
動力）に衷心より敬意を表します。じっ
くり全編を読み、学びます。
- 先日は、貴書を送っていただき有難うござ
いました。お礼が遅れ申し訳ありません。
糸賀一雄のことは初めて知りました。キリ
スト教徒であったことから石井十次、留岡
幸助を連想しました。著書はぼちぼち読も
うと思っています。
- 先日送って頂いた先生の「ひとと生まれて
人間となる」をパラパラと目をとおしまし
た。ふるさとがある方は いいですね。私
みたいにあちこち転々として人生を送った
ものには羨ましく思います。糸賀一雄さん
については何も知りませんでした。私も小
学校や中学校の時、野口英世やシュバイツ
ァーのような人生を送りたいと思ったこと
がありましたが、叶いませんでした。今
回は受け取りの御礼だけといたします。

- 一昨日、『ひとと生まれて人間となる—糸
賀一雄研究の新展開』が届きました。ご丁
寧にありがとうございます。
- 27 日に受け取りました。素晴らしい書籍
を送って頂いたこと、有難うございまし
た。実は、糸賀一雄という名前は、学生
時代に聞いたことがあると思うのですが、
すっかり記憶から抜け落ちていました。
渡部さんの第 15 章を読み、ウィキペディ
アで確認しました。ウィキペディアの外
部リンクに、「ミットレーベン〜故郷・鳥
取での最期の講義」がありましたので、
早速読みました。一読した所ですが、人
間としての教育に、正面からぶつかり深
い（重い）経験に裏付けられた理論と、
理想と現実の双方をきちんと踏まえて、
社会福祉に取り組んでこられた教育者（む
しろ思想家とも言えるかもしれません）
ではないかと感じました。更に糸賀一雄
（呼び捨ては気が引けますが）について知
ろうと思い、「福祉の思想」を注文しまし
た。読後に、色々考える所があると思い
ますので、メールさせていただきます。
- 先日は『ひとと生まれて人間となる—糸賀
一雄研究の新展開』を御恵贈いただきあり
がとうございました。積年の共同研究運動
の成果として学ばせて頂きます。また、三
学出版からということも、故中桐信胤氏に
よる『児童心理学試論』（1975）以来の因
縁を感じます。
- このたびは「ひとと生まれて人間となる」
をお贈りいただきありがとうございます。
すぐに読みましたが、深い内容でもう一度
読んでからと思い、お礼が遅くなって申し
わけありません。たいへん大事なことが深
い内容で書かれていますので、多くの人に
読んでもらいたいと思います。このままで
は読む人が限られると思いますので、内容
の叙述を一般向にして出版されるのがよい

のではないかと思いました。いちばんよい
のは「岩波新書」と思います …。

～～～

(三学出版(大津) 2021 年 2 月発行 本体
価格 2,300 円 + 税)